

令和2年度 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告

Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

都道府県【 愛媛県 】

学校名【 愛媛県立内子高等学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者	本校全学年（262人） 内子高校小田分校人権委員（6人） うちこ福祉館（3人） 内子町教育委員会（2人） 愛媛県人権対策協議会（1人） 大洲市喜多郡人権・同和教育委員（1人） 本校保護者（10人）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（体育祭、講演会、人権集会、人権委員夏季研修会、） ③ その他（総合的な探究の時間） (2) 地域における活動 ① イベント名 ② その他
4 目標(ねらい)	(1) 東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、スポーツ文化を育む。 (2) パラスポーツが誰もが楽しめるユニバーサルスポーツであることを実感する。 (3) オリパラ教育を通して、「ダイバーシティ&インクルージョン」を学び、自分の力を発揮できる生徒を増やし、学校の活力を高めていく。 (4) オリパラ教育を通して、コロナ禍の状況から今後、本校の学校行事にどのように新しい様式を取り入れて定着させられるかを考える。
5 取組内容	
(1) 8月4日	○人権委員夏季研修会（1、2年人権委員18名、内子高校小田分校人権委員6名、うちこ福祉館3名、内子町教育委員会1名、大洲市喜多郡人権・同和教育委員1名、本校分校教職員5名） ・「オリンピック・パラリンピックと人権」 オリンピック・パラリンピックの基礎的な知識・歴史を振り返り、様々

な人々への様々な配慮について学習し、オリンピック・パラリンピックを人権の視点から考えた。

・「パラスポーツ・シッティングバレーをやってみよう」

パラスポーツは、誰もが楽しめるスポーツであることを知るとともに、障がいを持つ人の動きを体験することができた。



(2) 9月5日

○体育祭（全校生徒 262名 教職員 36名 来賓及び保護者 150名）

・PTA競技種目「アキュラシー」

多くの人にパラスポーツを知ってもらいたいと考え、アキュラシーをPTA競技種目にした。地域や保護者の方々にとっても楽しんでいただいた。





(3) 9月～

○総合的な探究の時間（1年30名）

・「ノーマライゼーションを学ぼう」

将来、主に福祉関係の仕事を目指す生徒が選択した講座において、「ノーマライゼーションとは何か」を考えながら、現在の取組や課題について研究した。さらに手話と併せて、パラスポーツであるシッティングバレーやゴールボールについても研究した。誰もが住みやすい世の中にするために、私たちが取り組むべきことは何かを考え、学習した。



(4) 11月～

○体育 体育理論（1年88名）

・「運動・スポーツの文化的特徴」

人間だけが運動をスポーツという文化として捉えてきたことや、現代のスポーツ文化の変容を学習するとともに、オリンピック・パラリンピックの歴史を学びながら、世界平和の運動に結び付いていることを学習した。

(5) 11月

○体育 球技（1年88名）

・クラス対抗「シッティングバレー」

バドミントンコートを利用して、8人制で実施した。脚が使えないため、多くの生徒が、どのように動けばよいか考えられなかったり、とっさの動きに脚を使ったりしてしまい、自身の身体の動きに気付くことができた。





(6) 12月4日


○オリパラ教育推進講演会（全校生徒 262名 教職員 36名）

・ SMBC日興証券（株）所属 鈴木徹 氏（走高跳プロアスリート）

「2つのコンプレックスが私の武器になった」

マイノリティがマジョリティに対して歩み寄るのではなく、互いを尊重し合い、知識を高めながら生活様式を変えていかなければならないことを改めて考える貴重な時間となった。



<p>(7) 12月11日</p>	<p>○人権集会（全校生徒 262 名 教職員 36 名 手話講師 3 名 内子町教育委員会 3 名 うちこ福祉館 1 名 愛媛県人権対策協議会 1 名 保護者 10 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権クイズ 2020」</li> </ul> <p>SDG s の取組や同和問題をはじめとする様々な人権問題の幅広い分野の中からオリンピック・パラリンピックの人権に関する問題を出題し、様々な人権課題があることを知ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノーマライゼーションを学ぼう」</li> </ul> <p>総合的な探究の時間で取り組んだ成果を披露し、発表することができた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>様々な校内活動において、オリンピック・パラリンピックについて学習させることができた。普段はあまり体験することのないパラスポーツの魅力を知れたことやパラトップアスリートから話を聞いたことは、生徒にとって貴重な経験となった。また、誰もがかなえられる夢や楽しめるスポーツが数多くあることを知る機会となった。</p> <p>スポーツは、老若男女、誰もが楽しめるものであり、世界とつながり、人とつながることができるものであることを改めて知ることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>本校のオリンピック・パラリンピック教育推進のねらいを、様々な視点から捉え、よりよく達成できるように、保健体育の授業（体育理論）だけでなく、他教科で実施したり、体育祭や人権委員会活動などの学校行事にも取り入れたりした。さらに、生徒には体験活動を多く取り入れ、興味・関心を引くようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピックの歴史や魅力を自ら探究し、発見できるような時間を設けていたら、更に深く理解することができたように思う。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>体育祭や文化祭、クラスマッチなどでパラスポーツを取り入れて実施する予定である。</p> <p>体育理論の授業では、1年生を対象に、オリンピック・パラリンピックだけでなく、スポーツの意義や歴史、文化的特徴や現代スポーツを取り巻く様々な問題について学習する予定である。</p>